

図画工作における平成20年度授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

- ・ 造形活動を楽しみどんな課題でも興味を持って取り組める。
- ・ たくさんの表現活動に興味を持ち、自分なりに工夫して活動に取り組めるようになってきている。
- ・ 友達の作品にも興味をもち、認め合うことができる。今後も作品を通して伝え合う力を育む。
- ・ 制作している過程を重視する課題と自分の思いをもとに作品を完成させることを目的とした課題に取り組む。感性と技能をバランスよく育てる。
- ・ 既習したことを生かして完成度を高めたり、発想を展開できるようにする。

図画工作における調査結果の分析

内容別結果の分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 図画工作全体の取り組みは、興味・関心を持って授業に参加できている。</li> <li>○ 絵画では絵の具の色や技法、混色に興味を持っている。<u>応用力を身につけさせたい。</u></li> <li>○ 工作は自分の考えや、表現したいものを道具や材料を選んで工夫して取り組んでいる。</li> <li>○ <u>鑑賞では友達の作品をよく見て自分なりの感想をもつことができる。</u></li> </ul>
観点別結果の分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「図画工作への関心・意欲・態度」は高く、どの課題でも興味を持って取り組める。</li> <li>○ 「発想」「技術」では高学年になるにつれ、個人の能力差が見られる。</li> <li>○ 「鑑賞」は見本や友達の作品に興味を持ち、良い表現などを積極的に見つけ自分の表現に取り入れられる。</li> </ul>

図画工作科の授業改善のポイント

【内容】

- 1 「発想」については、完成形にとらわれ過ぎて表現が単調になるので豊かな発想ができるようにするために
  - (低) 関連作品や道具、発問や投げかけの工夫によって発想し、自分の作りたいものを表現できるようにしているが真似をしたりして自分だけの表現ができない児童も多い。課題に関連する物語や新しい表現技法などの掲示から想像を広げられるようにしていく。
  - (中) 様々な道具、材料から想像し、自分の作りたいものが表現できるようになってきている。発問、投げかけに工夫し、児童たちの興味を引きつけ話の中からそれぞれのイメージを広げていけるようにする。造形遊びなどで制作の過程を楽しむ課題を入れていく。
  - (高) 周りや概存のものに影響され自由に発想することができない。完成形にとらわれすぎて表現方法が単調になりがちな児童が多い。造形遊びを入れたり、様々なジャンルの作品を見たりして自由な発想で表現できるように的確な指導をしていく。

- 2 「技術」については新しい表現方法を知りたい、やってみたいという意欲が見られる。新しい表現を定着させ、自分の技法にできるようにしていきたい。
- (低) 新しい道具の使い方、絵の具の混色に興味を持ち楽しんで授業に参加できている。様々な道具や素材を準備し、表現の幅を広げられるようにしていく。
- (中) 個人差が見られるが各学年の基礎基本はこなすことができる。最後まで集中して取り組むことのできない児童がいるので、授業の合間に新しい表現方法や友達の作品の良いところなどを取り上げながら達成感を味あわせられるようにする。
- (高) 平面の技能はよく見て描くことができる。作品への取り組みは積極的で、技能も高い。集中力が持続しない子どももいるので、新しい物の見方など指導していきたい。立体は自分の描いた完成図にそって制作できるが、技能が追いつかないとやる気が失われてしまうので、子どもたちの能力に沿った課題を提示していきたい。

#### 【内容】

- 3 「鑑賞」において、見たり作品名を付けたりする事は楽しんでできるが、活動の中に取り入れ表現するようにしたい。また、完成後は友だちの作品を鑑賞し、鑑賞カードを記入する活動を取り入れている。
- (低) 授業の合間に友だちの作品を提示し、良い表現を認め合いながら自分の活動に取り入れ表現できるようにしていく。自然と触れ合い、身の回りのものからも発想を得られるように鑑賞活動をしていく。
- (中) 制作だけでなく友達の作品から良い所などを感じ取り、自分の活動に取り入れられるようにしたい。作品の展示を工夫し友達や自分の作品に興味を持てるようにする。アートカードを用いて、世界の作品にも触れ合う機会をつくる。
- (高) 鑑賞カードでは自分の思いを言葉にできるようにしていきたい。アートカードを用いて、世界の作品にも触れ合う機会をつくる。

【観点別】

- 1 「図画工作への関心・意欲・態度」についてどの学年も高い興味・関心を持って授業に参加できている  
→ (低) 様々な道具、教材、作品に興味を持たせ意欲的に取り組めるよう指導する。  
(中) 新しい課題や道具、材料に対して反応は良いため積極的に新しい教材・課題に取り組む最後まで持続できるように指導していく。  
(高) 既習の教材や課題に関しては集中が続かないことがあるので、応用力を高めてより完成度の高い作品を制作できるようにしていきたい。受身の態勢なので工夫のしやすい素材や題材を与えて自発的に活動に取り組めるようにしたい。
  
- 2 「発想・技術」では、自分の考えや思いを膨らませ表現することが難しい。思いを生かした表現ができるようにするために  
→ (低) 話からイメージを広げ、自分で考え行動し様々な道具や材料から自由に発想できるようにする。そのためにイメージを広げられるような教材の準備をする。安全な道具の使い方も日々確認しながら行っていく。  
(中) たくさんの道具材料の中から自分の発想に適した表現を見つけ、工夫して取り組めるようにしたい。完成を意識しながら最後まで丁寧に制作する。造形遊びなどで制作の過程を楽しみ発想を膨らませられるようにする。刃物を使うことが多くなってくるので安全な道具の使い方も日々確認しながら行っていく。  
(高) 完成形を意識しすぎるため柔軟な発想、表現の工夫をすることができない。絵画では細かいところまで意識して制作できているので、色彩や表現方法に工夫ができるように具体的に提示し、わかりやすく指導する。
  
- 3 「鑑賞」では、全体的に鑑賞の楽しさを味わうことはできるのだが、活動の中に取り入れ表現できるようにするために  
→ (低) 友だちの作品から気に入ったところ好きなどところを見つけてお互いの良い表現を認め合いながら活動に取り入れていく。  
(中) 友だちの作品や見本などから良い表現、真似をしてみたい表現などを自分で見つけ活動に取り入れるようにしていく。  
(高) 友だちの作品だけでなく、世界の作品に触れ、制作に取り入れていく。